

Hello!!

ALT

外国語指導助手(ALT)

マイキー



サンタに扮して中学校へ!

アイルランドの冬

日本は四季がはっきりしていますが、アイルランドは1日の中に四季があるといわれるほど、気温の差があり天候が変わりやすいです。アイルランドでは、雪はほとんど降らず、年に1、2回降るかどうかというくらい珍しいです。そのため、雪が降った日は、学校や職場、お店が休みになります。冬の気温は8度くらいで、芝生が出ているので、サッカーやラグビーができます。日本のように屋外でできるスキーなどのウィンタースポーツはありません。

12月に入ってからイベントといえば、クリスマスやお正月ですね。日本では、クリスマスよりもお正月のほうが大きいイベ

ントなのではないでしょうか。アイルランドは逆で、クリスマスが一番大きなイベントになります。まず、クリスマスが近づくと、気分を盛り上げようと、サンタの帽子を被って歩く人がたくさんいます。イブには、普段教会へ行く習慣のない人も教会へ出向いてお祈りを捧げます。クリスマス当日は、お店などは閉まり、家族や親せきと家で過ごします。ターキーやハムなどを食べるのが定番です。また、クリスマスには、たくさんの人がビーチに集まって、一斉に寒い海へ入るチャリティーイベントが開催されます。上がった後は、温かいコーヒーやワインを飲んだり、パイを食べます。

Xin chào!!

CIR

国際交流員 (CIR)

ニユン



自作したベトナムお正月の伝統的な料理「バインチュン(Bánh chưng)」

日本とベトナムのお正月文化の違い

日本でお正月を迎えるのは今年で3年目になりますが、正直に言うと、ベトナム人の私にとって、日本のお正月はまだ馴染みが薄い気がして、ベトナムのお正月の方が楽しみです。

新暦で新年を祝う日本とは異なり、ベトナムでは旧暦で新年を祝います。旧暦は太陰太陽暦といって、月の満ち欠けを暦のベースとして計算されます。ベトナムは古くから農業国であったため、旧暦は「農事歴」とも呼ばれ、旧正月は「テト(Tết)」と呼ばれます。ベトナム旧正月の時間は毎年違います。昨年の旧正月は新暦の2023年1月22日となりましたが、今年は2024年2月10日となります。

新暦であろうと旧暦であろうと、お正月を祝う文化を持つすべての国には、花火大会、初詣、伝統的な料理を味わうなど新年を迎えるための計画・活動をする共通点があると思います。また、民族や地域によってやり方は異なりますが、それこそが人類文化の多様性を生み出すのではないのでしょうか。ベトナムと日本のお正月文化の多様性を体験できるのは私の幸運だと思っています。

今年のお正月は札幌に行ってベトナム人の親友とお正月を祝う予定です。今年最後の数日間、家族と離れていても、私たちが悲しみやホームシックを感じなくなることを願っています。



おかもと かずこ
岡本 和子

1933年生まれ。習字や畑仕事など多趣味。昔から畑仕事は好きで、今はキャベツや白菜など色々な種類の野菜とお花を育てており、それが楽しいとのこと。

新しい経験を通して成長し続けて欲しい

岡本さんは樺太で生まれ、引き上げ船で青森に渡り、その後稚内市を経て、ご結婚を機に猿払村に移住されました。岡本さんは多様な仕事に挑戦され、どんな仕事でも働くことが楽しかったそうで、加工場や芋掘りなどさまざまな職種に従事しました。その中の澱粉工場で働いていた際に旦那さんも働いており、それをきっかけにご結婚をされたそうです。その後小石に移動してからも、子ども服のお店や乳搾り、木材を炭に製造する炭焼きなど、多岐にわたる仕事に携わっていたそうです。「いろいろな仕事を経験することで、大変なこともありましたが、逆にそれが人生を豊かに、楽しくしてくれたと感じています。また、仕事を通して多くの人と出会い、新しいことを学ぶことができたのは幸せで

した」と当時を振り返ります。

そんな岡本さんは猿払村について、「一番住みやすく、心地よい場所です」と語ります。岡本さんは習字や畑仕事など多趣味で、畑仕事は昔から好きで、今でも様々な野菜や花々を栽培しているそうです。また、猿払村の豊かな自然がとても好きで、「昔は山に入りタケノコをたくさん採っていたこともありましたが」と笑顔で教えていただきました。

最後に猿払村の未来を担う若者へ向けて、「地元を大切にしながらも、色々なことに挑戦し、自分の可能性を広げ、そして新しい経験を通して成長し続けて欲しいです」とエールを送りました。

時代の立役者と
未来を担う若者

紡ぐ時代

つながる未来

今と未来のインタビュー

どんな世代の人にも信頼される人になりたい

野場さんは、小学3年生から野球を始め、学校での部活動と宗谷ベースボールクラブでの活動をこなし、ピッチャーからショート、ライトなど幅広いポジションでプレーし、学校終わりや休みの日にクラブの練習に行くなど、野球に力を注いでいます。始めた当初は、ミスをして「次にできればいい」と思うだけでしたが、今では一つひとつのプレーを大切に、次はどうすればいいかを考えるようになりました。

今までは家庭学習をほとんどしていませんでしたが、受験生という自覚から、取材日の2週間ほど前から毎日家庭学習に取り組み、最近の数学のテストでは満点を取るまでに。「数学は問題が解けた時の達成感があり楽しい」と語りま

す。学校では、メリハリをつけて生活することを意識しており、中学校入学当初は友達にいじられるとすぐに泣いたり怒ったりしていましたが、後輩ができてからは、かっこ悪い姿は見せられないと思いい、気持ちのコントロールが上手になったとのこと。

猿払村は、人が少ないが人とのつながりが深いところが好きとのことですが、買い物ではネットを使わざるを得なくなることや、体育館が使えないときにみんなで集まって遊ぶ場所がないところに少し不満を感じることもあります。

将来は、父の仕事を継いで漁師になり、どんな世代の人にも信頼を寄せてもらえるような人になりたいと語ってくれました。



のば うきょう
野場 侑恭

拓心中学校3年生。ラップバトルを見ることにはまっている。生で見たいいつか出てみたいと思っている。